

646  
42.HIS

通商局  
通

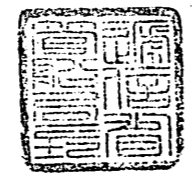


送付候  
右ニ關シ日清汽船會社ヨリ別紙寫ノ通り届出有之候ニ付御參考迄及

支那ニ於ケル排日狀況ノ件

外務省 通商局長殿

遞信省 管船局長



船監第六八五號 通牒 昭和三年八月十七日

通商局 第一課

第二課

昭和三年八月拾八日接受

遞信省

645

了 經濟絶交中ハ嚴ニ敵人ノ視  
 間ト批發ヲ防ス  
 日本人ノ精取ラント思ハズヤ與ラズ日自陰謀ヲ以テ  
 ノ聯合ヲ欲スルヲ防セシムル例ハ日俄後ヲ送リテ代金ヲ持  
 トシテ汽船ノ運賃ヤ食料ヲ割引シテ或急輕便ヲ買収  
 シテ等々相面ニ争ハレタリシテ然ル以上過激ニ言フヤガ為  
 經濟絶交ニ甚効果ヲ收ムトカ出来ヤウシ今後ハ吾界  
 民衆ハ以テ團結シ政府ノ後援トナリ權利ヲ合算シ大室ヲ建ル  
 勿シ日本人ノ奸計ニ隔レ勿シ (伊知地名記) 外務省

南京ニ於ケル排日運動ト其影響ノ件

山東出兵ニ其ノ端ヲ發シ濟南事件ニ依リ激成セラレタル今回ノ排日運動ニハ當地モ其ノ例ニ洩レス宣傳講演示威運動等一時ニ勃起セントスル形勢アリシモ支那官憲ノ取締リ意想外ニ嚴重ナリシカ爲メ此等表立チタル運動ハ直チニ其ノ影ヲ潛メ例ノ與ノ手タル抵制日貨ノ一途ニ向テ其ノ全カヲ傾注スル事トナリ一切日貨ノ取引ヲ嚴禁シ其ノ實行ヲ看視スル爲メ日貨検査隊ヲ組織シ市内樞要ノ箇所ニ配置シテ以來當地水西門通りニ於ケル著名ナル雜貨卸商王永大號ノ上海ヨリ仕入レタル支那製雜貨中ニ日本製具「ボタン」ヲ混入輸入セルヲ停車場ニテ發見セラレ反日絶交委員會ニ貨物全部ヲ没收セラレ罰銀二百五十弗ヲ課セラレタルヲ初メトス抑留又ハ没收ノ災危ニ遭ヒタルモノ貨物數百件ニ上ル由ナルモ日本人關係ニテハ當時當地居留邦人ノ殆ト全部ハ復歸早々ニシテ開業準備若クハ商品仕入レニ歸國中ノモノ多ク僅カニ殘レル一二ノモノモ濟南事件後ハ下



申上候也

其後各地排日狀況ニツキ別紙ノ通り報告有之候間御參考迄ニ御届

御 届

昭和三年八月一日

日清汽船株式會社

社長 森 辨 治 郎

逓信省管船局長 宮 崎 清 則 殿

昭和三年七月三日 南京報告

關ニ避難シ營業停止セル爲メ燧生公司製「マツチ」四箱海陵門ニテ抑留セラレタル外何等ノ事故モ起ラス極メテ平穩ニ經過セリ其故一時下關ニ移轉シ形勢觀望中ナリシ我カ帝國領事館ノ城内復歸ニ隨ヒ居留邦人モ城内各自居宅ニ歸リ開業セルモ格別ノ妨害モ受ケズ營業モ卸方面ハ全然健目ナレト小賣方面ハ多少賣行キアリ日本人所有商品ノ運搬ニモ差支ヲ見ス謠言ハ可成り盛ンニテ爲メニ日本人使用支那人カ多少不安ヲ感シ居ルハ事實ナレト一ツトシテ實現サレタルヲ聞カス邦人ノ居住營業共ニ不安ヲ感セサル狀態也

從來排日運動ノ紋切形タル先ツ第一着ニ盛ナル示威街宣傳講演ニ始マリ抵制日貨ノ方法モ邦人商店ニ張り番ヲ附シ暴力ヲ以テ支那人ノ出入ヲ禁止シ支那人商店ノ手持日貨ヲ検査沒收シ甚タシキハ邦人ニ對シ食料ヲ賣ラス郵便電話ノ利用ハ勿論馬車人力車等ノ使用サエ妨害シ直接暴行サエ頻々發生シタリシ當時ト比較セハ現在ノ如キ狀態ニテハ今回ノ排日運動ハ最早ヤ既ニ終熄セル如キ外觀ヲ有スルモ實際ニ各方面ニ及ホ

シツ、アル影響如何ヲ觀察スレハ終熄トコロカ排日氣勢ハ未タ中々盛ンニシテ益々深刻ニ内面的ニ瀾漫シ逐ニハ救フ可カラサル痼疾ニ變化スルニ非スヤト疑ハル、傾向サエ往々ニシテ之ヲ觀取シ得可シ之レハ從來ノ排日運動ニハ曾テ見サリシ現象ニシテ今回ノ排日運動ハ種々ノ點ニ就テ從來ト頗ル其ノ趣キヲ異ニセル特殊性ヲ有スルカ如シ即チ「今回ノ排日運動ハ普遍的一般的也從來ノ排日運動ニ際シテハ甲地ニ激烈ナルモ乙地ハ然ラサル場合多カリシモ今回ハ支那全國ニ亘リ區域廣ク又利害關係上排日貨ニ反對セサルヲ得ヌ如キ事情ヲ有スル實業家階級ニテモ排日運動ノ手段方法ニ關シテハ免モ角感情的ニハ排日ヲ當然ト認メ共鳴シ居ルコト

右ハ過去十年ニ互リ間斷ナク繰リ返サレタル排日ノ叫ハ今ヤ支那全國ニ互リアラユル階級ニモ浸染シタル結果理非曲直ヲ論セス盲目的ニ對日反感熾烈トナリ一般民衆ノ排日宣傳ニ對スル感受性非常ニ鋭敏トナリタル爲メト多年排日運動ヲ指導セル國民黨員カ今ヤ實際政治ノ局ニ當リ形式丈

ケニモセヨ兎ニ角全國統一ノ成就セル爲メ排日宣傳ハ今迄ヨリモ容易ニ有効且ツ徹底的ニ行ハル、カ爲メ也

一、從來排日運動ヲ牛耳レルモノハ重ニ學生勞動者等ニシテ實際上ノ無權力者ナリシ爲メ彼等ノ行動ニ權威ナク運動ノ猛烈ニシテ花々シキ割ニ事實其程ノ効力ナカリシモ今回ハ然ラス排日團體ノ内ニハ國民黨員ハ元ヨリ國民政府重要職務ニ携ハル官吏等其ノ幹部ニ網羅シ居ル故ニ表面上ハ兎モ角排日團ト官憲トハ暗黙ノ間ニ一脈ノ連絡了解ヲ有スル如ク誤解サル、ハ當然ニテ隨テ排日團ノ規約罰則等ニテモ出駄羅目ナル一片机上ノ空文ニ非ス實際ニ強制力及ヒ實行力ヲ有スルモノト一般支那人間ニ解釋セラレ 居ル爲メ何等其權限ナキ團體ヨリ發セラレタル規則罰則ナルニモ拘ラス實際上國家ノ權力ヲ以テ其實行ヲ強制サレタル法令ト同一ノ効力ヲ有スル如キ結果トナリ從來ニ比シ排日團體ノ權威ハ非常ニ増進セラレタルコト

一、運動方法モ直接邦人ト衝突ヲ避ケ極メテ内面的陰性的ナルコト其ノ原

因ハ北伐完成ノ必要上。共產黨ノ暴動豫防並ニ日本ノ強硬ナル態度等政治外交上種々ノ理由ニ依リ今回ノ運動ハ極メテ陰性的ノモノナリ然カモ各方面ニ及ボシツ、アル影響ハ却テ重大ニシテ決シテ輕々ニ觀過シ得可カラサルハ當地吾社ノ營業狀況ヲ見テモ其ノ一斑ヲ推知シ得可シ

平均一船ニ付キ噸數	昭和三三年六月分		平均一船ニ付キ噸數
	上水	下水	
航海度數	一九	一九	航海度數
	噸	噸	
貨物噸數	一〇〇	ナシ	貨物噸數
	噸	噸	
平均一船ニ付キ噸數	昭和三三年五月分		平均一船ニ付キ噸數
	上水	下水	
航海度數	一九	一九	航海度數
	噸	噸	
貨物噸數	一〇〇	ナシ	貨物噸數
	噸	噸	

平均一船ニ付キ噸數	昭和三三年四月分		平均一船ニ付キ噸數
	上水	下水	
航海度數	二〇	一九	航海度數
	噸	噸	
取扱貨物噸數	二三	一四	取扱貨物噸數
	噸	噸	
平均一船ニ付キ噸數	昭和三三年五月分		平均一船ニ付キ噸數
	上水	下水	
航海度數	二二	二五	航海度數
	噸	噸	
貨物噸數	一〇	三〇	貨物噸數
	噸	噸	

南京日清汽船會社取扱輸出入貨物噸數及運賃  
昭和三三年四月分

656

一、濟南事件後ニ於ケル排日状況ノ件

當地ニ於ケル濟南事件後ノ排日運動ハ前回御報告申上タル日貨排斥運動ノミニテ其他ノ排日運動ハ見ラレ申サス候、日貨排斥運動ハ今週中モ前週ト變化ナク依然根氣ヨク經濟絶交委員會ノ活動有之候モ何等問題起リ申サス候タダ日貨ノ市價漸次騰貴致シ居リ候

社船ニヨル出貨モ相變ラス支那人荷ハ皆無ニ御座候

以上。

九江出張所報告

655

南京ヨリノ乗船々客數

昭和三年四月中 合計 五〇九名

・ 五月中 ・ 一四〇名

・ 六月中 ・ 三三名

以上

天津駐在員報告

一、當地ニ於ケル排日運動ノ件

天津ハ由來左傾分子ノ存在稀ナル處ニシテ排日運動ト稱スヘキモノ管テ  
牝頭ヲ見サル次第ニシテ今回ノ山東出兵濟南事件ノ如キモ敢テ排日運動  
ヲ惹起スルニ至ラサル有様ニテ。當地社船支那人出入貨ハ入貨ニ於テ昨  
年度ニ比シ九割乃至十割減、出貨ニ於テ五割一分(五月)六割五分(六  
月)ノ減少ヲ見タルハ當地支那人商人カ邦船積荷ヲ嫌ヒタル爲ニハ非ラ  
スシテ揚地ニ於ケル排日 氣運ヲ顧慮シテノ結果ニ外ナラス候

以上

上海支店報告

(二) 反日會決議事項

前報後上海各界反抗日軍暴行委員會ニ於テ決議シタル事項ノ内主ナルモ  
ノ左ノ如シ、

一、日貨取扱小賣店ニ對スル行銷證(販賣許可證)發行方法ヲ左ノ通り定

ム

1. 各小賣店ニ對シ在荷日貨全部ニ對スル總許可書ヲ給シ本年十月十

日迄ニ全部賣上ヲナサシムルコト。

2. 救國基金納付ニ就テハ割拂ヲ許可ス。

3. 工整會ヲシテ各店ノ狀況ヲ注意監視セシム。

ニ奸商ニシテ外人ノ力ヲ藉リ検査員ノ検査ヲ妨害スルモノニ對シテハ常  
務委員會ニテ之ヲ處理ス。

三、沒收日貨ハ沒收後一ヶ月内ニ本會ニ之ヲ登記シ救國基金ノ納付ヲナス

- ヘシ、期限経過スルモノハ本會ニ於テ隨時處分ス
- 四、江南紙廠ノ排日貨ヲ機會ニ販賣價格ノ騰貴ヲ計ルハ不當ニ付秘書ヲシテ注意セシムル事。
- 五、日商取扱綿糸布三百八十七俵押收ノ件ハ之ヲ返還スルコト、ス、
- 六、河南對日、經濟絶交委員會ノ來狀ニヨレハ本會ノ計畫大綱ニ抵觸スル點アルヲ以テ當地各商ニ對シ河南向貨物ノ輸送停止スル様通告ス。
- 七、中華國貨維持會ノ提議ニ依ル化學工業教員養成所創設ノ件ハ之レヲ中央政府ニ建議ス。
- 八、材木商ヨリ救國基金ヲ納付ハ商品賣却ノ時ニ之ヲ行フ様變更セヨト申出アリタルモ許可セス。
- 九、租界内ニ於ケル商店ニシテ未タ登記ヲナサ、ルモノアルヲ以テ本會ヨリ先ツ南京路四大公司ヘ對シ至急登記スル様警告ヲ與ヘ若シ承諾セサレハ新聞紙上ニ廣告シ該公司ヨリ購入スルコトヲ禁シ購買スルモノハ賣國奸奴トス。

- 十、藥業者ノ請求ニ係ル全品ノ登記ハ一般日貨ト別ノ法ヲ設クル件ハ調査委員會ニテ處理ス
- 十一、シルケツト染織製造原料タル細糸ニ對スル救國基金ノ件ハ左ノ通り定ム。
- 1、在華日本人紡績製品ノ中三十二手以上六十手迄ノ綿糸ノ基金ハ每小包銀五兩ヲ納メシム本基金ハ關稅自主實施ノ期ヲ以テ停止ス。
  - (註) 前記五兩ハ其後十兩トスルノ議アリ未タ決定セス。
  - 2、本基金ハ反日會代表三人染織業代表一人絲光業代表一人靴下業代表一人共同檢印ノ上銀行ヘ預入ス。
  - 3、本基金會ノ使途ハ其十分ノ二ヲ反日運動費ニ充テ十分ノ三ハ細糸紡績建設費ニ供ス。
  - 4、紡績増設ニツキ研究ヲナスコト。
  - 5、貨物ノ検査ハ反日會ニテ之ヲナシ企業者ハ協力幫助スルコト。



- 6、直チニ基金納付ノ上通行許可證ヲ取得スヘシ、
- 7、本規定ニ違反スルモノハ嚴罰ニ處ス、
- 十三、點春堂（砂糖商組合）ノ報告ニヨレハ各營業者日本糖在荷ナク契約品ハ全部解約セシトノ事ナルカ検査委員ヲシテ嚴重検査セシムルコト、ス、
- 十三、檢察委員會ハ今後名稱ヲ上海各界反抗日軍暴行委員會檢察委員會トス、

十四、排日貨運動進行方法トシテ左ノ通り決議ス

- (一) 1、四大公司ニ對シ三日以内ニ來會登記スル様警告ス
- 2、登記セサレハ前回ノ決議ニヨリ執行ス
- 3、全國民衆ニ對シ四大公司トノ取引ヲ禁止スル様通告ヲ發ス
- 4、検査隊ヲシテ四大公司ヨリ購入シタル貨物ヲ沒收ス
- 5、以上實行ノ外奸民懲罰令ニヨリ處分ス
- (二) 四大公司以外ノ大商店ニ對シテモ同様辦法ス

- (三) 秘密検査隊ヲ組織ス
- (四) 排日貨宣傳週ヲ設定ス

以上

通商局

第三號

高親第三六五四號

昭和三年八月十八日

昭和三年八月廿一日接受

大阪府知事

亞細亞局

外務大臣 殿

陸軍大臣 殿

内務大臣 殿

商工大臣 殿

内務省警保局長 殿

右廳府縣長官 殿

近畿商工會議所對支問題協議會ニ関スル件

663  
A11.0.7-1  
412.7112

昨十七日大阪商工會議所ニ於テ京都、大阪、神戸ノ三商工  
會議所第二次對支問題協議會ヲ開催シタルカ出席者十五  
名ニテ別紙ノ決議ヲナシ直ニ外務、商工(貴)省其他  
南洋出先官憲等約二十ヶ所ニ宛テ郵送スルコトトナシ  
散會シタリ

尚高柳(大阪)松尾(京都)初井(神戸)ノ三理事ハ未  
ルニ十一日外務省及陸軍省ヲ訪ヒ當局ノ意見ヲ聴取シ  
帰阪後更ニ第三次協議會ヲ開催スル豫定ナリト云フ  
右及申(通)報候也

仁正様付  
附屬ノ資料ハ三ツニ分ルルニ決シテハ本館ニ送付スルコトトナシ

日本軍決議  
日貨排斥ニ関スル決議

今回支那及南洋各地ニ彌漫セル日貨排斥及排日  
運動ハ日ニ月ニ深刻ヲ加ヘ何時終熄スルヤモ圖  
リ難キ狀況ニアリ吾人商工業者トシテハ從來  
ノ経済ニ鑑ミ隱忍自重ノ態度ヲ以テ之ニ對スル  
モ亦一策ナリト虽モ排貨ノ方法益々陰險惡辣ヲ  
極メ通商條約ニ及ビ國際信義ニ悖ルノミナラス  
往々暴行ヲ伴フカ如キハ断シテ默止シ難キ所ナ  
リ然シテ今回排貨排日カ國民政府ノ指導指嚆ニ出ツ  
ルコト明カナルヲ以テ同政府ニ對シテ之カ取締ヲ  
要求スルモ容易ニ其ノ目的ヲ達シ難キニ依リ別ニ適  
切ノ方法ヲ講スルコト、シ差當リ南洋ニ於ケル排貨  
排日ニ関シテハ尤ノ對策ヲ講スルヲ以テ緊要ナリ  
ト認ム

- 一 政府ハ宜シク南洋ニ於ケル各國植民地官憲ニ交  
渉シテ支那人ノ排貨運動ヲ停止セシムルコト
- 二 以テ除却商自ラ團體ヲ組織シ南洋ニ於ケル商狀ヲ  
調査シ土人ト直接取引ノ方法ヲ講スルコト
- 三 右ニ對シ政府、航運業者及金融業者ノ協力ヲ乞  
フコト

大澤香三郎  
京都愛工會  
功月香工會

回信收

沼柳

通商局

第三課

昭和三年八月廿四日接受

特外郵政 第三號

昭和三年八月廿日

福岡縣知事 齋藤守國

通一

内務大臣 望月圭介 殿

外務大臣 田中義一 殿

指定府府縣長官 殿

支那及南洋方面ニ於ケル排日貨ノ状況ニ

關スル件

管下門司并ニ若松港入港支那及南洋沿海航  
路船舶船長又ハ船客ノ洩シタル全地方排日貨ノ

状況尤記ノ通りニ有之御參考迄

記

一北支那沿岸ニ於ケル排日貨ト我海運界ノ蒙ル

影響(天津閩崎汽船會社社長會談)

北支沿岸ニ於ケル排日貨ノ状況ハ從來ト大ニ其趣ヲ異ニ

シ表面的ニ何年著シキ運動ヲ見カセ其裏面

ニ於ケル策動ハ刻々深刻化シ我カ海運界ノ荷担ハ

頗ル萎縮セル状能ヒニテ我カ本社ニ於テハ本年四頃

ヨリ事實上取引休止ノ状能ヒニアルニ從來ノ地盤ヲ維持シ

テ換ラ見越シ航セシメツアリ

由來全地方ニ於ケル海運界ハ英國ノ支配下ニアリタルヲ

665

(No. 4461012-Y)

4/21/12  
4/18/12

近年漸次我國ノ手ニ西朝ヲ握ラントシツツアリタルモノナ  
ルガ支那ノ排日債ハ我カ海運界ノタメ誠ニ憂ヲベキコ  
トナリ

ニ漢口、撫湖方面ノ排日債状況

(近海郵船若松丸船長ノ談)

全方面ハ表面沈靜ナレモ日本カ南北妥協ヲ阻止セリ  
トナス南派支那人ニヨリ隱密ノ向ニ画策セラル、排日  
貨宣傳ノタメ支那商ニテ日本高商品ヲ購入スルモノ殆  
ント無シ

三、南領スラバヤニ於ケル排日債ノ状況

(大坂商船スラバヤ丸船長ノ談)

現在南領「スラバヤ」ニ日本人約七八百名在住シ居レ  
ルガ近時新嘉坡方面ヨリ各地方ニ入込ミタル不逞  
支那人ハ支那内地ト呼応シ日貨排斥ノ宣傳ヲ為シ支  
那商人ヲ恫嚇シテ日本品取引ヲ為サシメズ甚ニス  
ハ客月中旬以來數回ニ渉リ我カ「バタビヤ」駐在領事  
ニ對シ強迫狀(其ノ内容詳不明)ヲ送致セルヲ以テ同  
地和蘭政府ハ警察官(五人)ニテ數名ヲ我カ領事館  
ニ派シ警戒シ居レリ

了

通商局

第二課  
商務書記官

昭和三年八月廿八日接受

特外解和第一〇二一號

昭和三年八月廿二日

函一  
本  
福岡縣知事齋藤守國

内務大臣望月圭介殿

外務大臣田中義一殿

指定廳府縣長官殿

掛日運動状況ニ関スル件

667  
42.111  
中国々民党ノ掛日運動状況ニ関シテハ都度  
及報告ニ置シ又八月十九日付日本郵船上海支  
店ヨリ全門同支店宛テ左記ノ如キ情報アリタル  
ヲ以テ御参考迄

記

掛日運動ニ関スル件

一日貨封在条令

当地掛貨運動ハ前報以來依然緩和也ス好民條  
令ニ依リ市内引廻シ等ノ懲罰ヲ受クルモノ漸次増  
加シ来タリ租界外ニ於ケル日貨ノ検査ハ益々厳重  
ニ行ハレ時々戸別検査ヲモ行ヒ居リ支那新聞  
紙ハ連日此ノ種記事ノ掲載アリ最近更ニ日貨  
封在條令十二ヶ条(別紙)ヲ制定シ近ク執行  
ニ決テ可決ヲ經テ実施スルコトナリ居レリ  
一救國基金現況

最近市外日貨ノ検査益々嚴重トナルト共ニ日  
 貨ヲ登記スルモノ次第ニ増加シ同時ニ救國基金  
 金ノ實際ノ課徴率ヲ引下ケタル為メ之カ納入額  
 元増加シ末タリタル為メ救國基金委負会ヲ設ケ去  
 ル四日第一次會議ヲ開催シタルカ其ノ彙表スル處ニ  
 依レバ現在基金在萬七千弗ト外ニ支那棉糸  
 布其他工場ノ寄附金等約策千形ヲ含メ約十二  
 萬元ニ達シ居レリト云フ

一、荷捌状況

上海並ニ上海ヲ中心トスル江蘇浙江等隣接各  
 省ノ荷物ハ益々不良ナルモ漢口四川並ニ北支那方  
 面ハ多少荷動ナリ之レガ原因季節物冬物等  
 手持薄トナリタルコト及救國基金引下ケニ依ル  
 モノナリト云フ

一、柳留日貨返還

租界外支那人取扱日貨柳留ハ前述ノ如ク甚々  
 頻繁ニ行ハレツ、アリ邦商荷物取押事件モ  
 前報以來更ニ一二件増加セリ  
 交渉中ノ邦商日貨六件ハ明カニ邦商ヨリ支那  
 商ノ手ニ賣渡サレタルモ特ニ日本側ノ要求ヲ答  
 へ返還ニ応スル旨回答アリ一部ハ已ニ引取リタル  
 モ残部モ近ク引取ル筈ニナリ居レリ

別紙

及日會日貨封存条令(概要訳文)

第一條 本会ハ日貨ノ販賣者ヨリ消費者ニ後動スルヲ防ク爲メ本日特ニ日貨封存条令ヲ制定ス(四日)

第二條 凡ソ救國基金ノ納入ヲ惣セス手持日貨ヲ封存セント惣スルモノハ本条令ニ依リテ處理ス

第三條 日貨ヲ封存セントスルモノハ書面ヲ以テ本会ニ申請スルヲ要ス

第四條 凡ソ日貨ヲ封存セントスルモノハ其ノ品名種類数量價格及保管場所ヲ明記シ申告書(3)

ト共ニ本会ニ提出スベシ

第五條 本会ニ前条ノ申告アリタル時ハ會員ヲ派シ検査ヲ行フモノトス

第六條 前条取調ノ結果誤リナキハ本会ヨリ封條ヲ發給ス

第七條 大口日貨ニシテ倉庫内ニ封存セントスルモノハ本会ニ封存申告ヲナスト共ニ當該倉庫事務所ニ同様ノ聲明ヲナシ倉庫書類ニ之ヲ明記スルヲ要シ本会ノ署名アルニアラザレバ着荷ヲ受クルコトヲ得ス

大口日貨ニシテ日本倉庫内ニアルモノハ本会負立



会ノ上日商以外ニ倉庫ニ積倉ヲナスヲ要ス封存  
ノ手續本條第一項ニ同シ

○ 第八條封存ノ日貨ハ関税自主ノ日以後ニアラザレハ開  
封發賣スルヲ得ス

第九條封存中ノ日貨ヲ販賣シタルモノハ救國基金定  
率ノ倍額ヲ課シ且ツ奸民條令ニ照シ弁理ス

第十條日貨封存ノ所ニシテ本会ニ於テ不適当ト認  
ムルハ本会ヨリ指定スル所トアルヲシ

第十一條本條令ハ本会執行委員会ノ可決ヲ經タル  
日ヨリ施行ス

○ 第十二條本條令ハ五月五日以前ニ於テ購入シタル日貨  
ニ對シ適用スルモノトス

ニ對シ適用スルモノトス

通商局長  
兵外發秘  
昭和三十八年八月二十三日

通商局

第三課

兵庫縣知事 長延

通

内務大臣 望月圭介 殿  
外務大臣 齋藤中義 一 殿  
指定廳 府縣長官 殿

671

671

上海本邦實業團ノ排日對策  
協議會ノ狀況ニ関スル件

左上海本邦實業團ヲ以テ組織セル  
排日對策協議會ハ每週金曜日ヲ  
定例トシ協議會ヲ開催スル事ニ決定

セル由ニテ本月十日ノ協議狀況ニ付最  
近同會ヨリ神戸商工會議所ニ對シ左  
ノ如ク通知アリタリ御參考ニ  
右及申(通)報候也

一 紡績

在華紡績全業組合

従来状態不良ナリト虽 多少賣川アリタルモ最近  
ニ至リ各社共約定一切ナク在華激増ス此状態カ  
今再縫繰スルトセハ愈々重大問題トナルベシ

二 綿糸

綿糸全業組合

日紡製糸ニ対スル取引ハ値下ケニ依ル思惑買多少  
アリタルモ後未綿安ノ入電ニテ投ケ退ク等ノ状態ナク  
二十番手綿糸ニ対シ一俵方両ノ救國基金納付ノ上取  
引ヲナク件ニ付昨日ヨリ引續キ協報中ナリ  
尙也ヨリ積出しニ日本人ノ名義ヲ借リ又ハ邦  
人名ヲ装ヒテ為スモノアリ

三 綿布

綿布全業組合

本週荷捌キ一六二箱前週ヨリ10%減少ナリ

一方日本ヨリ積送り亦ハ従来ニ比シ半減セ  
ルモ賣川ナキ為メ保稅倉庫ニ入庫スルノ  
外ナク商業者ノ苦境益々甚シク遠カラズ  
破産者ヲ出スナラム

一昨日ハ綿布百五六十俵改装シテ滝澤  
線ニテ魚錫向發送シタルカ反日委員會ノ  
手ニ差押ヘラレ一俵ニ付二十四五元ヲ納メテ  
漸ク送荷セリト云フ

漢江四川方面取引ナシ之ハ全地在華過  
剩ノ為メナラム 江浙地方各方面ニ於テハ  
運送中ノ危険サ、除去セラルレハ買附希  
望ノ向ヨリ

四 砂糖

糖商會

批日米ノ契約ニ係ル日本糖ハ其ノ後市価低減ハ十  
米乃至壹月毎ノ状態ニテ支那商ハ批日ヲ口  
實トシテ契約解除ヲナスベク去ル之日協議ヲ  
重ネタルガ協議價ヲス次會ニ於テ研究スルコ  
トナレリ

當地ニ於テハ日本糖売リ困難ノタメ漢口ニ積出  
ス向アルモ在荷既ニ二十三万俵ニ達シ此ノ上收容  
カナク而モ同地ニ送荷スルコトハ担一月四五十  
米ノ損失ヲ見ルノ状態ナリ

五 紙

紙商組合

新聞紙ニ對シ來ル九月一日以後救國基金ヲ坐

收スルトノコトニテ本年々末迄ノ輸入急キトナリ  
入荷激增收容倉庫缺乏ヲ甚ナルニ至ル今在  
ハ一部積止メラ要求スル筈

六 工業品

變化ナシ

七 工業

工業同志會

各方面共取引減退セリ

八 船舶

最近多額ノ日本糖が郵船ニテ漢口向積出サレ  
居ル事實アリ研究ヲ要ス  
最近支那商ヨリ鎮江下流不用港地タル口岸向  
綿布卷送ノコトニツキ相談アリタルモ同地ハ乘客

ノ停留場ナル關係上、輸送出來ス乗客ノ荷物トシテモ取引ス  
一、三ノ釐金額ヲ通シテ支那舟（或モ<sup>シヤンク</sup>）ニテ送為ス  
ガ蒸ナタルモ途中差押ニテハ、危険アリトコト  
九 穀肥

蕪湖茶種禁輸ノ件未ダ解決ヲ見サルノミナラス 上海及日  
本ノ外更ニ漢口其他各地ニ對シテモ輸出禁止ノ運動中ナ  
リトノ噂アリ

十三 菱商事 株式会社

取引依然 勢ナク 何等好転ノ模様ナシ

土 大阪貿易調査所

蝙蝠傘ニ三十箱大阪ヨリ積來リ 四川方面ニ發送セシ

形跡アル外支那商人間ニ在ケル日本雜貨ノ荷物皆

無ナリ

過般 大信洋行店員が賣上代金集金ノタメ杭州ニ赴  
キ同地及日團ノ誤解ヲ招キ 物議ヲ醸シタリ

以上

支那ノ形勢運動が香港ニ在ル吾社  
 業部及亦ハ最細考ニ就ク  
 概況  
 濟南事件勃發當時在メテ陰謀ノ兆ヲ示シテ當  
 地及廣東兩地ノ形勢運動ハ西地直屬ノ機中ノ必  
 生ヲ示シテ事ニシテ平穩ニ為レタレハ各地ニ在ル  
 支那商人所謂華僑ノ事件ハ真相ヲ知悉セザルニ  
 レタルニ傾合子ノ煽動モリ又ハ機中ヲ利ナシテ  
 吾利ヲ博ストセシ後得テル商人ノ運動モリテ米、港  
 及他地強固地方ニ在ルニ支那人ノ機中ノ形勢  
 債及日本形勢不核運動走リ五月下旬以降各地ニ在  
 形勢多ク日ヲ進メテ深刻ナル最細考ヲ示ルニ到  
 此上ハ以當初ノ形勢運動ハ漸ク平付テ去機中

社會式株船郵本日

675  
 A1102-4  
 112-112  
 112-112

債外第五五號  
 外幣有價者向長 日本郵船株式會社  
 取和三年八月廿日  
 一 濟南事件ノ社業及支最細考  
 首題ノ件ノ関シ弊社在長地支店多ク大要別  
 紙ノ通リ報告入手仕候了為申上候  
 移様申上候

社會式株船郵本日

通商局  
 昭和三年八月廿日  
 附  
 昭和三年八月廿日接受

又しこのレテ支那革命の影響を察するに如きり其分  
カ抑的方針を取りし見事ケラレシラハ其相  
傳播ト共口ラスレキ鎮靜の論スレト期待セシニ  
拘リ甚其滿洲向款條約の款を大ナルが友向款  
ノ類義スルキ南系政府の機力運送ヲ妨グテ是ガ  
折々ノ解決ヲ自己ノ有利ノ道カントシテ計畫ヲ建テ  
タルモノ如ク表面ニ於テ其運送ノ事ハ其故ノ如  
ク之ヲ欣ガナド、暗ハツテ表面ニ於テ其運送ノ事  
ニ拘リテ協和シテアルモノ如ク之ヲ入りテ之ヲ排ス  
事ノ前ニ中米及南米西岸諸國の運送スレニ至レリ

輸出と船舶

2.

社會式株船郵本日

噸數三、七五七、一五〇トシテ其年日若クハ三度一、一五〇ハモ  
此後トナキハ生帆船數一隻ヲ増やシニ拘リラズ積取リ  
七噸ハ八、五三七ト約七割ヲ減減テ示レ居レリ之レハ  
化向地別ニ觀ルニ最も深刻ノ象徴ナルト云テ又ハ南支、海  
峽諸島方面ニシテ亦ハ其大半南洋洋行及港海  
方面行ハ輸力他ニ於テ外人高率積取モノリ他是に船積  
ヲ運送シ居レド支那人高率積取モノハ皆無トナリ是取積  
至リテハ其方面ニ在居タル支那人ノ積取額ニ亦南島地帯  
ニ蔓延シレ七月下旬ヨリ日方面行貨物積取額ニ減  
スレニ至レリ

3

南米西岸方面ハ支那高干係密接トシテ社船以外在  
航船便十々年久メ自ら如何ヲ特起スベキ影響ナラ其  
他ノ政府市場南米東岸ヨリニ亦如何ノ影響アリ

社會式株船郵本日

5.

輸入貨物  
 日本貨の輸入  
 内地及支那ニ於テハ六月末迄ハ多程平穩ナリシガ四月迄ハ  
 ア尚ホセリシ、日貨ハ先程減少シ、見ザリシモ、内地ノ日貨  
 日貨ノ輸入ハ廈門汕頭梧州等市ノ貨物増加方面母口安南  
 盤谷新加坡及瓜哇方面ニ於テハ微少ノ日貨不買ノ由アリ  
 又支那産物ノ大需要地ニ支那省長江門、向平、新會  
 台山、恩平、方、於テハ、批發業者濃厚ニシテ日本貨ノ需要ハ常  
 更甚シ、激進シ、六月ノ日本貨ノ内地輸入量ハ五月  
 前月より約三五〇〇七、四月ハ四月ハ比シ約三六七〇七、六月  
 比シ約一、一ノ一層更シ、上半年ノ輸入量ハ僅々  
 二四一九七〇ト過ガズ、七月ニ入リテ支那ニシテ内地輸入  
 日本貨ノ對シテハ、日貨振興基金ノ名目ノ下ニ原價ノ

日本郵船株式會社

4.

輸入貨物  
 日本貨の輸入  
 内地及支那ニ於テハ六月末迄ハ多程平穩ナリシガ四月迄ハ  
 ア尚ホセリシ、日貨ハ先程減少シ、見ザリシモ、内地ノ日貨  
 日貨ノ輸入ハ廈門汕頭梧州等市ノ貨物増加方面母口安南  
 盤谷新加坡及瓜哇方面ニ於テハ微少ノ日貨不買ノ由アリ  
 又支那産物ノ大需要地ニ支那省長江門、向平、新會  
 台山、恩平、方、於テハ、批發業者濃厚ニシテ日本貨ノ需要ハ常  
 更甚シ、激進シ、六月ノ日本貨ノ内地輸入量ハ五月  
 前月より約三五〇〇七、四月ハ四月ハ比シ約三六七〇七、六月  
 比シ約一、一ノ一層更シ、上半年ノ輸入量ハ僅々  
 二四一九七〇ト過ガズ、七月ニ入リテ支那ニシテ内地輸入  
 日本貨ノ對シテハ、日貨振興基金ノ名目ノ下ニ原價ノ

日本郵船株式會社



6.

貨ハ華僑ヨリ取扱リシ店ルモ 北船便務ノ量往來ト著ク  
 政海方面ヨリノ輸入  
 各地ニ政海ヨリ 鉄板積貨オク輸入シ華人輸入業者  
 相當アシキ何シモ 元地ニ積止メノ至テヲ教レシモ  
 操キテリカキノ意ナシ  
 北米方面ヨリノ輸入  
 口スアズシスニ 輸入者高知輸入ノ重要トナルニ新南オ  
 專ラ華僑ノ年々ノ輸入セリシ店ルモ 北船便務ノ人  
 平素判リ 北船便務ノ輸入シテアリ  
 之業スニ 高知華僑ニ 販賣者トシテ今日迄ノ北船便務  
 岸リルトモナリ 燈子ニ 他ノ異業アリキナリ 輸入者  
 地ヲ中絶トスルカ知ニ 積日貨扱行ヲ 官リシ店ルモ 干係上  
 日本米ノ輸入量ノ甚シク 北船便務ノ業ニ 危ニ 始メナリ

日本郵船株式會社

682 612891211

亞細亞局

第一課  
第二課

通商局

昭和三年八月

第一課

昭和三年拾月五日 授受

北支那ニ於ケル排日團體調査

(満鐵情報)

関東廳警務局高等警察課

S . 11102 . 652

北支那ニ於ケル排日團體調査目次  
一 端書

二 北平特別市党務指導委員會

三 北平濟案外交後援會

四 北平學生聯合會

五 河北省党務指導委員會

六 天津特別市党務指導委員會

七 天津反日大會

附 重要事件一束

S 11102 653

一端 言

今次南方勢力ノ北進ト共ニ北支那ニ於ケル排日運動ハ動モス  
レハ再燃セントスルノ兆候ヲ示レテ來タ現在京津間ニ在ル民衆  
團體ハ多ク馮玉祥系ノ系ヲ引ク分子ニヨリテ占メラレ共產党  
的色彩比較的濃厚ナリト見做サレテ居ルカ一面極端ナル排  
日思想ヲ一般市民ニ鼓吹宣傳シテ居ル

昨年上海長沙各地方ニ在ッテ常ニ排外殊ニ排日及罷二運  
動ニ携ッテ來タ幾多ノ南方分子カ北支那ニ於ケル各級民衆運  
動ノ指導權ヲ握ッタ以上彼等カ三民主義宣傳ノ策ニ日本帝國  
主義ノ打倒對日經濟絶交ヲ大呼シ行ク行クハ昔日ノ共產党  
ノ戦法ヲ學ブニ至ルコトハ寧ロ當然ノ途テアラウ  
由來支那ニ起ッタ新レイ運動ハ總テ南カラ北ヘト移ッテ來  
タ關係上北支那ノ風潮カ容易ニ東三省ニ波及スル可能性ハ

充分ニアル之ノ意味カラレテ今日之等排日團體ノ成立經過  
主旨内容等ニ就テ聊カ調査ヲナシ將來ノ參考ニ資セムト  
スルコトハ必ズモ後事ヲイト思フ

(北平ノ部)

ニ北平特別市党務指導委員會

北平ニ於ケル排日團體ノ親王<sup>三</sup>何ト云ッテモ北平特別市党務  
指導委員會テアル石委員會ハ張作霖ノ都落シタ直  
後即チ六月六日宣武門外爛熳胡同湖南會館ニ孤々ノ教  
ヲ揚ケタ現在事務所ハ舊回教育部跡ニ移ッテ居ル  
今該委員會ノ組織並主要役員ヲ記述スレハ次ノ如シ

- 組織
- 秘書處、一、處長外務員
- 組織部、一、部長一名
- 訓練部、一、部長一名

S 11102 655

S 11102 654

2. 主要役員

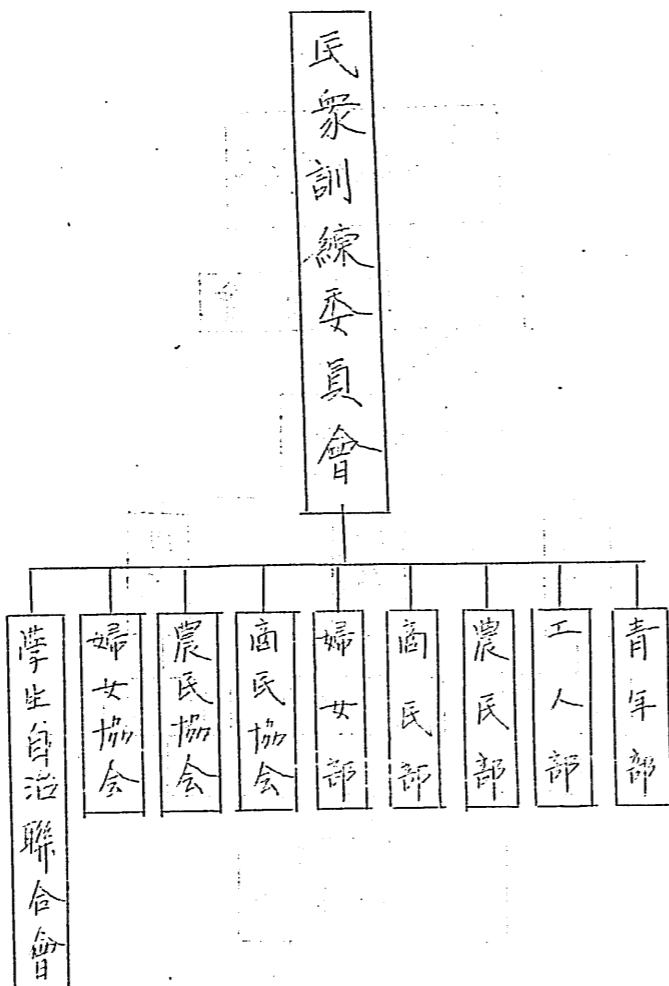
中央党部ヨリ派遣セラレタ左記九名ノ指導委員ヲ主体トシテ組織シテ居ル此ノ外ニ當地ニ於テ雇ハレタルモノ七十二名アリ

馬洗繁、黃國楨、黃如金、徐季吾、梁子青、李吉辰、王季亮、李樂三、許超遠、

以上各員ハ多ク馮玉祥ノ系ヲ引ク分子ニシテ常ニ當地山西派執力ノ驅逐ニ努メテ居ル關係上西者間ノ反目絶エズ去ル八月十六日行ハレタル總工會ノ解散ナトハ其一ツノ現レテアル右ハ市党部ノ概略ヲ述ヘタルモノナルカ排日運動民衆運動工會組織等ハ右機關ノ中ラモ主ニ民衆訓練委員會ナルモ

宣傳部、部長一名  
民衆指導委員會  
(本委員會ニ就テハ別ニ詳ニ述ス)

ノ内容ニ就テ調ヘテ見ヤウ  
1. 組織

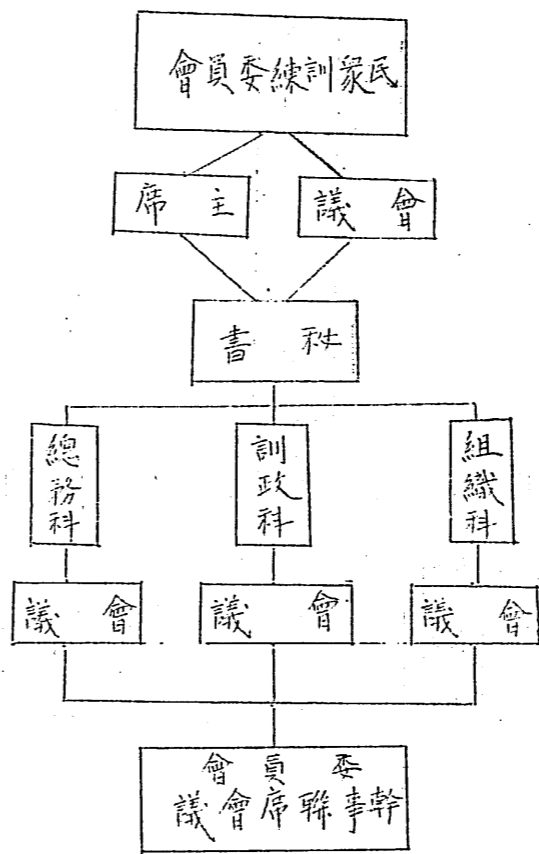


七月以降  
新設  
機關

S 11.102 657

S 11.102 656

系 統



3. 委員人名

- 李樂三、梁子青、黃如金、徐季吾、許超遠、徐步雲、
- 張甲三、張克明、張雲卿、曹 鰲、石文嘉、呂和璧、
- 張景山、胡繼華、呂季智、謝 斌、張雲竹、楊忠儀、
- 常玉森、李澤民、張衛濱、程宋溪、王惠暢、徐賢閣、
- 汪季子、馬慈溪、
- 以上二十六名

(現在在任人員ニハ多少ノ移動アルヘシ)

三北平濟案外交後援會

北平濟案外交後援會ハ氏衆指導委員會ノ手ニヨツテ組織サ  
 レタルモノニシテ北平ニ於ケル排日運動ノ先鋒ヲアル最初募集  
 シタ當時ハ容易ニ豫定ノ會員ヲ得不行臨ノ状態ヲ續ケ只僅ニ  
 新聞紙ヲ藉カテ遠吠エヌルニ過キスレテ兎ニ毎八月一日市党

S 11102 659

S 11102 658

部内大禮堂ニ於テ成立式ヲ挙ケタ其ノ後八月十一日ニ至リ左記五  
名ニヨリテ組織セラレ、濟案山東代表ノ來平スルアリテ聊カ景  
氣ヲ挽回シタ觀ハアツタカ日本居留民ノ少ナク北平ニ於テ大  
ニ其效果ヲ納メルニトノ出来ナカッタノハ豫想通テアツタ  
張汝祺、佟濟悳、趙錫光、伍吉忠、張郁光  
(宿所西河沿燕台旅館)

687  
no4

而レテ該委員會成立當日來會セルモノハ總商會、銀行公會、  
全國商業聯合會、學生聯合會、農民協會、商民協會、  
五私立大學聯合會、婦女協會、總工會、辯護士公會、公  
安局、警衛司令部、等各團體ノ代表二十四名ニシテ學生聯  
合會代表張翰猷主席トシテ開會ヲ宣シ次テ左記ノ通該  
會ノ趣旨ヲ報告シ職務分擔及宣言文ヲ議決シタ  
一濟案外交後援會成立趣旨

S 11102 660

「日本ノ數次ノ山東出兵ハ我國國民軍ノ北伐ヲ阻止シ五月三  
日濟南ニ於テ軍民ヲ銃殺シ空前ノ慘事ヲ醸成セリ血  
氣アルモノハ皆憤怒胸ニ充タサルモノハナク當時種種ノ  
關係上ヨリ派ヲ吞ミテ隱忍シタリ今ヤ北伐ノ成功ト共ニ  
交渉ニ開始サレトス外交ノ勝利ヲ冀ヒ民衆ノ後援  
ヲ頼ミテ茲ニ本會成立セタリ  
即チ國民一致團結政府ノ為ニ後自ヨナレ濟南事件ノ  
公正ナル解決ヲ促ス云々

S 11102 661

- 職務分擔
- 總務股
- 文書股
- 宣傳股
- 出版股
- 學生聯合會
- 公安局、財務銀行公會、總商會
- 新聞記者公會、農民協會
- 五私立大學聯合會、辯護士公會

交際股  
 調査股  
 事務股  
 藝術股

總商會、婦女協會、  
 紅十字會  
 商民協會  
 童子軍聯合會、婦女協會、

但シ毎週一回執行委員會ヲ開キ毎二週一回代表大會ヲ開ク事務所ハ暫ク市党部ニ設ク

三宣言文(概略)

我カ中華民族ハ帝國主義ノ鐵蹄下ニ蹂躪ヲ受クル事  
 九十年ニ垂ムトシ創痍未タ癒エサルニ彼ノ帝國主義ハ更ニ  
 忌憚スル所ナク不平等條約ノ工具ヲ以テ侵略壓迫シ中  
 國ヲ情落セシメ第一殖民地タラシムトスルノ計ヲ企圖セリ  
 茲ニ建國ノ大業漸ク逐ヒテ我國民ノ欣慰ヲ増サムトス  
 何リ吾等ノ歡喜ニ限リアラムヤ惟フニ最近ノ五三濟南

S 11102 662

事件ヲ回顧スレバ日本帝國主義ノ狼心野心ハ居留民ノ保  
 護ニ藉口シテ山東ニ出兵シ國民革命ノ進展ヲ阻止シ國際  
 正義ヲ置イテ顧ミズ我主權ヲ蔑視シ我カ領土ヲ蹂躪シ  
 我國民ヲ慘殺シ濟南城ヲ砲撃シ我カ膠濟鐵道ヲ占領シ  
 公理ヲ毀棄シ人道ヲ絶滅セリ此ノ耻ヲ念ヘハ叱裂ク  
 未タ解決サレサル本事件ニ関シテハ我カ國民タルモノ敵愾  
 同仇斯ノ耻ヲ誓雪スシテ已マムヤ嗚呼夫ノ山東滿蒙幾  
 ムト我有ニテアララムトス彼ノ帝國主義者ハ長蛇鯨吞蚕  
 食ス同人等ハ茲ニ敢テ披髮ノ意ヲ本トシテ斯會ヲ組織シ  
 大聲疾呼全國人民ノ力量ヲ集中シ一致努力我國民政府  
 ノ後自ト為リ該事件ノ公平ナル解決ヲ促シ我カ國權ヲ張リ  
 人道下正義ヲ發揚シテ經濟絶交ヲ行ヒ彼ノ帝國主義  
 者ノ經濟侵略ヲシテ日ニ滅絶ニ趨カシメム

S 11102 663



no6

四北平學生聯合會

北平學生聯合會ノ成立ハ休ズレモ排日ヲ目的トシテ生シテ  
モノテハイ係シ從來起ツタ總テノ排日運動ト云フモノカ  
學生運動力其ノ骨子ヲナシテ居タ關係モアリ又前項濟  
案外交後援會ナトト密接ト關係ヲモツモノナルカ故ニ特  
ニ茲テハ排日團體ノ中ニ列入シタノデアアル

北平學生聯合會ハ市党部民衆訓練委員會ノ指示  
ヲ受ケテ活動スル團體テアツテ北平國立加校大學ノ外  
ニ清華、燕京大學其ノ他ノ主ナル學校カ加ツテ居ル、蓋  
シ本聯合會ノ成立ハ六月十九日頃テ事務所ニ現ニ市党部  
内ニ置イテ居ル 本會ノ執行委員會ノ組織ハ大体於  
テ三校ヨリナル若干名ノ代表ニヨツテ内部ノ事務ノ一部宛ヲ  
擔當スルコトニナツテ居ル即チ

文書 北京大學、法政大學、鹽務學校、  
交際 女子大學、協和醫學校、燕京大學、  
財政 稅務學校、俄文專門、朝陽大學、  
庶務 平民大學、農科大學、輔仁大學、  
宣傳 民國大學、清華大學、藝術專門、  
調査 交通大學、醫科大學、華北大學、  
今本會ノ章程ヲ掲クレハ左ノ如シ

北平學生聯合會章程

第一章 總 綱

第一條 本會ヲ北平學生聯合會ト定名ス  
第二條 本會ハ學生運動ノ統一學生利益ノ增進ニ民主主義  
ノ擁護ヲ以テ宗旨トナス  
第三條 本會ハ北平各學校學生會ニシテ本市党部民衆

S 11102 665

S 11102 664

訓練委員會ノ認可ヲ經タルモノヲ以テ之ヲ組織ス  
第四條 本會權力機關ヲ代表大會、執行委員會、監察委員會議トナス

第五條 本會々員ハ學校ヲ以テ單位トナス

### 第二章 會員

第六條 凡ソ北平各學校學生會ニシテ本章程第三條ノ規定ニ合シテ本會章程ヲ遵守シ能フモノハ皆本會々員タルコトヲ得

第七條 凡ソ本會々員ニシテ反動ノ事實アルトキハ會員五名以上ノ提議ニヨリ代表大會三分ノ二以上ノ出席會員ト其三分ノ二以上ノ議決ヲ經テ除名スルコトヲ得

第八條 本會々員ノ權利左ノ如シ  
1. 選舉權並ニ被選舉權

- 2. 建議權 (但シ會員三名以上ノ連名ヲ要ス)
- 3. 提議權 (但シ會員三名以上ノ連名ヲ要ス)
- 4. 質問權 (但シ會員五名以上ノ連名ヲ要ス)
- 5. 表決權
- 6. 複決權

第九條 本會々員ノ義務左ノ如シ

- 1. 本會章程ノ遵守
- 2. 會議ヘノ出席
- 3. 本會議決案ノ服從
- 4. 會費ノ納附

### 第三章 組織及職權

#### 一 代表大會

第十條 代表大會ヲ本會最高權力機關トシ各學校學生會代表

S 11102 667

S 11102 666

no 8

表二人ニヨリ之ヲ組織ス

第十條 代表大會ハ本會一切事項ノ議決及各種委員選舉權ヲ有ス

第十一條 代表大會ハ會員過半數ノ出席アリテ方メテ開會ス

(四) 執行委員會

第十三條 執行委員會ヲ本會執行事務機關トシ代表大會ヨリ毎年十月ニ軍記名投票法ニヨリ之ヲ選舉ス

期ヲ一年トシ再選ヲ防ケス

第十四條 執行委員會ノ職權左ノ如シ

1. 本會章程以外ノ章程ノ制定及改訂

2. 會員ノ合法建議ノ受理

3. 會員ノ合法提議ノ受理

4. 會員ノ合法質問ノ受理

5. 代表大會依頼事項ノ決議

6. 監察委員會諮詢事項ノ答覆

7. 本會ノ豫算及決算ノ決議

8. 本會特別寄附金ノ募集及三十元以上臨時費運用

ノ決議

9. 代表大會議決案及其他例行事項ノ執行

第十五條 執行委員會カ代表大會ノ決議案ニシテ執行困難ニ遭遇セル場合ハ再議ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 執行委員會ハ代表大會ニ對シ責ヲ負フ

第十七條 執行委員會ニ左記各股ヲ設ク

1. 文書 二枚

3. 文書 三枚

S 11102 669

S 11102 668

109

3. 賤務 二校

4. 宣傳 三校

5. 出版 一校

6. 調査 一校

7. 事務 一校

第十八條 執行委員會ハ對外的ニ本會ヲ代表ス

第十九條 執行委員會ハ必要ニ應シテ其他ノ會員ヲ幹

事ニ聘請スルコトヲ得但シ執行委員會ニ提呈シ通過ヲ經ルヲ要ス

(三) 監察委員會

第二十條 監察委員會ニ五名ノ委員ヲ置ク代表大會ヨリ

之ヲ選出ス(選舉期及選舉法ハ執行委員會ニ同シ

第二十一條 監察委員會ノ職權左ノ如シ

1. 執行委員ニ若シ違法或ハ怠職アリレ時ハ彈劾ノ權ヲ有

ス  
執行委員ニ若シ彈劾ヲ接受スル誠意ナキトキハ監察

委員會ハ代表大會ヲ召集シ之ヲ解決シ得其主席

ハ常務委員會ヨリ擔任ス

2. 會員ノ合法提議ヲ受理

3. 執行委員會ノ開會サレケル時監察委員會ハ二人以上

ノ委員ヲ派シテ列席傍聽セシムルコトヲ得

第二十二條 監察委員會ニ常務委員一人ヲ置ク選舉ノ時得

票最モ多キモノヲ以テ之ヲ充任ス

第二十三條 監察委員ハ代表大會ニ對シ責ヲ負フ

第二十四條 監察委員ト執行委員ハ兼任スルヲ得ス

第四章 經費

S 11102 671

S 11102 670

第二十五條 本會ノ經常費ハ本會會員ヨリ納ムルトコロノ常年金ヲ以テ之ニ充ツ

第二十六條 本會ノ常年金ハ毎年毎校四元トシ兩期ニ分テ納附ス

每學期開始ノトキニ於テ執行委員會賅政股ヨリ之ヲ徴收ス

第二十七條 本會ノ臨時費ハ各會員分擔トシ茲其ノ他ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ募集ス

第五章 會議

第二十八條 代表大會ハ每月常會一回ヲ開キ執行委員會文書股ヨリ之ヲ召集ス 若シ特別事故發生セルトキハ會員五

名以上ノ提議ニテ臨時代表大會ヲ召集シ得 第二十九條 執行委員會ハ毎二週間毎ニ常會一回ヲ開キ文書股

ヨリ之ヲ召集ス 若シ特別事故發生セルトキハ委員二人以上ノ提議ニテ臨時會ヲ召集シ得

第三十條 監察委員會ハ常務委員カ必要ト認メタルトキニ於テ之ヲ召集ス

第三十一條 本會各種會議ノ主席ハ臨時ニ之ヲ推定ス但シ本章第三十二條第一款ノ規定ハ此ノ限ニアラス

第六章 附則

第三十二條 本章ニ疑義アルトキハ解釋權ヲ代表大會ニ屬ス 第三十三條 本章程ニ若シ盡ササル個處アレハ執行委員會或ハ會員五名以上ノ提議ニヨリ代表大會ノ通過ヲ經テ之ヲ改正ス

ルニトシ得 第三十四條 本章程ハ通過ノ日ヨリ實行ス

S 11102 673

S 11102 672

no 11

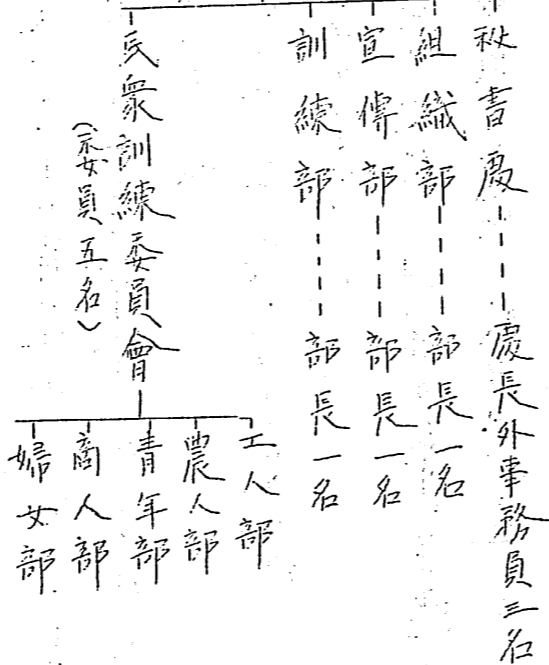
(天津ノ部)

河北省軍務指導委員

張作霖ノ季安立タル五月初旬頃ヨリ南京中央党部ヨリ派遣サレタル委員數名ハ極々秘密裡ニ天津佛蘭西租界内ニ在リテ直隸省党務指導委員會ヲ組織シ居リタルカ奉天軍ノ撤却後ニ至リ稍積極的ニ活動ヲ開始スルニ至ッタモノデアル六月七、八日頃ヨリ新聞ニ宣言ヲ發表シ各方面ニ激文ヲ飛ハスヤウニナツテカラ漸ク世人ノ注目ヲ惹キ六月二十七日國民党ノ各種宣傳ビラヲ及那側各處ニ貼付シ始メテ以來甚開ニ公然ト委員會ノ存在ヲ認ムレタカ當初天津河北扶輪學堂ニ事務局慶ヲ置イテ居ッタカ最近ニ至ツテ現在山東馬路ニ移轉シテ今之カ内部ノ組織並主要役員ヲ不セハ左ノ如シ

組織

河北省党務指導委員會



主要役員

現在該党部ハ全部テ五十四名ノ役員ヲ有シ居ルカ其ノ中主要幹部ノミヲ記スレハ左ノ如シ

河北省党務指導委員會主席

王南復

秘書長

王宣、賀新

組織部

張清源 (秘書楊赤同)

S 11102

675

S 11102 674

右各主要人物ハ總テ廣東人ナルコトハ特ニ注意ヲ要スルトコロテ  
 アル此ノ外王徳有、梁子青、崔子信、壽普、買繼明、王國  
 楨等アリテ新聞紙上ヲ賑ハシテ居ル  
 本党部ノ對日本感情ヲ知ル為ニ左ニ其ノ宣傳文ヲ掲ク  
 最光ノ日本帝國主義ヲ打倒セヨ  
 日本帝國主義ハ我等中國ヲ侵犯シ朝鮮ヲ奪ヒ台湾、流  
 球、澎湖島ヲ奪ヒ大連、旅順ヲ占領シ我中國ニ通り不平等

S 11102 676

民衆指導委員會

宣傳部 劉繼武

張清涼、劉瑤璋、吳鑄人  
(青年部長)

哲氏(工人部長) 劉繼武

其他馬洗凡(農工部長) 趙霜峯

(商人部長) 不明(婦女部長)

S 11102 677

條約ヲ強訂シ我國種々ノ權利ヲ占メ又ニ十一ヶ條ヲ提出シテ我  
 等ノ國家ヲ亡ホサトス 最近軍閥式田中内閣ノ民意ニ違  
 反シ公理ヲ顧ミス滿蒙政策ヲ進行シニ十一ヶ條ヲ實行ス更惡  
 ムヘキハ二次ノ山東出兵ナリ萬惡ノ軍閥ヲ幫助シ我等ノ國民革  
 命ヲ阻害シ我等ノ主權ヲ侵害シ我等ノ官長軍民ヲ慘殺ス  
 眞ニ吾界最光ノ獸的行爲ナリ我等ハ中日兩民族共存共榮ノ  
 為日本民族ヲ喚起シ田中内閣ヲ打倒シ吾界平和ノ為吾界  
 民族ノ公論ヲ喚起シ田中ノ野心ヲ制止スルヲ要ス我等ハ國  
 民黨指導ノ下ニ團結シテ起テ皆聯合戰線ニ立テテ奪回  
 シ日本帝國主義ヲ打倒スルヲ要ス

天津特別市黨務指導委員會

天津特別市黨務指導委員會ハ河北省黨務指導委員會  
 會ト同筆資格ノ下ニ置カルヘキモノテアルカ目下ノ状態ヲハ恰

カモ其ノ指導下ニ在ルカノ如クニ見エル其ノ成立時日ハ殆ント前項  
 省党部ノ成立ト前後シテ外國租界内ニ生レタモノテ之カ表面現  
 レテ來タノハ六月ニ於テ西日支那街ニ約三十餘種(三十万枚)ノビラ  
 フ配布シタ頃カラアツクテ而シテ七月一日省党部ハ同シク民國  
 日報ニ宣言文ヲ發表シ且ツ示威遊行大會ヲ行ツタ  
 活動ノ範圍及策動ノ内容ハ殆ント省党務指導委員會  
 ト同様テアルト觀ルヘキテ握テ其ノ差違ヲ弄ヌルヲハ指  
 道ノ地域カ天津トイハ場所ニ限ラレテ居ルトイフニ過キナイ  
 今左ニ之カ内部ノ組織及主要役員ヲ示セハ

一) 組織

秘書處  
 組織部  
 訓練部

工入部  
 商民部

特別市党務指導委員會

民衆指導委員會

農民部  
 婦女部  
 婦女協會  
 商民協會  
 學生聯合會

註系統ハ北平市党ノ

分ヲ参照サレタリ

二) 主要役員

天津特別市党務指導委員會主席

王乃勳

秘書處

任培道

組織部

蘇蓬仙

宣傳部

彭志瑜

訓練部

莫子鎮

民衆訓練委員會

同仁齊 蘇蓬仙(兼) 彭志瑜(兼)  
 莫子鎮(兼) 馬千里

S 11102

679

S 11102

678



14.

最近民衆訓練委員會、馬千里ハ有テハ排日屋ニシテ魯齋香  
 等ノ派ナル茲ニ面白クハ奉天軍ハ其ノ退却ニ當リ勝手ニ市  
 党務指導委員會ヲ組織シテ去リシ与メ混乱時代ニハ幾多ノ  
 委員會及指導スル便衣隊カ發生シタカ結局前記ノ役員カ  
 中央ヲ正式ニ認メテトテアル  
 今ヤ此等ノ團體ニ北支那ニ於テ最モ山西派勢力カ充實セル  
 天津ニ在リテ反山西、棋幟ヲ真向ヲカラ振りカサレ馮玉祥勢力擴  
 張運動ヲ進メテ居ル曩ニ京津官憲カ北平ノ總工會ヲ解散セ  
 シメ得タルニ反シ天津カ解散ヲ免レタ等、其ノ間ノ消息ヲ物  
 語ルモノテアラウ

七、天津市反日大會

天津市反日大會ハ前項河北省党部並ニ天津市党部ノ指導ニ  
 ヲツテ八月二十一日總商會内ニ其ノ成立會ヲ舉ケタルモノニシ  
 テ專ラ日貨ノ排斥ヲ以テ其ノ目的トスル團體ヲアル而シテ八  
 月二十三日ニ開カレタル第一次代表大會ニ於テ日貨排斥ノ大綱カ  
 定メラレタカ今其ノ主要ナル點ヲ摘録スレハ

- 一、愛國基金ノ募集
- 二、反日宣傳方法（反日小冊子、國耻圖繪、領布等）
- 三、對日經濟絶交ノ方法（官衙、學校ハ日本製品ヲ使用セズ  
 日本貨幣ヲ使用セズ日本人ノ使用人トナラヌ等）
- 四、支那商ニ對シテ日貨ノ販賣ヲ禁止スル旨通知ス
- 五、日本租界ニ在ル支那商人ヲ租界外ニ撤退セシム
- 六、碼頭工會ヲ組織シテ日貨ノ運搬ヲナサレメス
- 七、糾察隊ヲ組織シテ日貨ノ検査ヲナシ各商店ノ日貨  
 ハ一週間以内ニ登記シ其ノ以外ニハ日貨ノ購入ヲ禁ス
- 八、事務所ハ暫ク總商會内ニ設ク

S 11102 681

S 11102 680

1015

而シテ之カ役員左ノ如シ

(一) 執行委員 (三十一人)

劉秉純、張升甫、曹視九、劉錦堂、唐際清、李國幹、張紹衡、荆憲生、董翔鵬、徐鎮北、董有春、王德曾、賀西十、錢端智、張人瑞、王文田、趙安萱、徐卓然、朱子琦、耿日初、王一民

(二) 候補執行委員 (三人)

宋朝義、朱桂芳、馬務齋

(三) 監察委員 (五人)

李燕臣、田淑媛、李朝梓、王鳳祥、林懋志

(四) 候補監察委員 (二人)

劉燕東、王登第

八 重要事件摘録

前記七團體カ六月以來八月ニ至ル間ニナシタル主ナル事跡ヲ摘録列

託スレハ左ノ如シ

託

月日	重要事件
六月六日	北平爛漫胡洞ニ北平特別市党務指導委員會生ル
六月九日	北平市党部ハ時局ニ對スル宣言ヲ發表ス
六月九日	北平最初ノ工會京綏西直門鐵路工會生ル
六月九日	國民黨機關紙北平民國日報再刊サル
六月一日	河北省党務指導委員會天津佛租界ニ生ル
六月一日	北平學生自治聯合會成立ス
六月一日	天津恒源紗廠ニ罷工發生ニ警官ノ夕メ勞動者有
六月一日	殺害サル

S 11102 683

S 11102 682

二九	北平市党部ハ一般市民ノ党籍登記ヲ開始ス
二九	天津市党部ハ反日大會ノ組織ヲ準備ス
二九	濟業山東代表張汝祺等五名來京ス
二九	北平總工會及各種工會ハ突如北平軍政當局ノ爲ニ一律解散ヲ命セラレ
二九	但シ天津ノ工會ハ危リ解散ヲ免ル
二九	北平市党部ハ總工會解散ニ関シ長文ノ宣言ヲ發表ス
二九	天津ニ反日大會成立ス
二九	北平大學第二院ニ濟業外交後援會講演會開ル
二九	北平總工會復活説盛ニナリ

S 11102 685

三〇	北平總工會生ル
三〇	河北省党部ハ總理記念週條例、秘書、組織宣傳三部ノ辦事細則ヲ發表シ又各種宣傳ヲモ奉表ス
三〇	國民黨機關紙北平民國日報再刊サル(天津河北八大胡同)
三〇	國耻紀念週始マル
三〇	本日北平各界ハ「北伐成功祝賀市民大會」ヲ天安門廣場ニ開催ス
三〇	天津各界ニモ「北伐成功祝賀市民大會」開カル
三〇	河北省党部ハ段祺瑞初メ各派ノ土豪劣紳ノ廢罰方ヲ南京中央党部ニ申請ス
三〇	北平市党部内職員ノ党籍登記並試驗行ハレタリ

S 11102 684